

## 令和 7 年度 白井市地域自立支援協議会 第 3 回全体会 議事要録

会議名：令和 7 年度第 2 回白井市地域自立支援協議会全体会

日 時：令和 8 年 3 月 19 日（木） 午後 2 時 35 分～4 時 00 分

場 所：団体活動室 2・3

出席者：鈴木会長、小林副会長、島田委員、大網委員、久保委員、高木委員、東坂委員、山本委員、松村委員、久松委員、高橋委員、川野委員、岡田委員、協力者 西原氏、協力者 佐々木氏（15 名）（以下、敬称略）

事務局：石田課長、工藤係長、浦尾係長、久保田、會津（障害福祉課）

：飯ヶ谷、甲斐、（基幹相談支援センター）

欠席者：石川委員、石田委員、秋本委員、橋本委員、野路委員、新田委員、中村委員、山崎委員

傍聴者：3 名

資 料：資料 1 会議次第

資料 2-1 白井市障害者計画 2026-2032

資料 2-2-1 生活支援部会 下半期活動報告

資料 2-2-2 就労部会 下半期活動報告

資料 2-3 白井市基幹相談支援センター・委託相談の実績及び評価について

資料 2-4 次年度以降の自立支援協議会のあり方について

参考資料 白井市地域自立支援協議会設置要綱

研修等お知らせ

議 題：

2.白井市地域自立支援協議会 全体会

（1）障害者計画策定委員会の報告

（2）今年度の各部会活動報告

（3）白井市基幹相談支援センター・委託相談の実績および評価について

（4）次年度以降の協議会のあり方について

（5）その他

<課長挨拶>

石田課長 ）皆様ご多忙の中ご出席いただきありがとうございます。協議会にお力添えいただきありがとうございます。市の次年度に向けての説明も含めて今年度の振り返り。今年度は、4 月に白井市基幹相談支援センターの設置があった。協議会の事務局等担いながら、利用者支援も行っていただいた。次年度以降も皆様にご理解いただきながら進めてまいりたい。また、2 年間に渡り障害

者計画の策定について皆様にご意見を賜りながら進めてきた。次年度は、国の定める障害福祉計画、障害児福祉計画を1年間で策定していく。次に、白井市障害者支援センター民間移管計画について。譲渡の内容や事業者の選定を含めて検討していく。委託相談の検討については、次年度委員の皆様からご意見を賜りたいと考えている。また、新年度からスタートする第6次総合計画に初めて、障害者等社会参加促進啓発事業が重点事業に位置付けられている。障害のある人とない人の交流や自発的に交流する場を増やしていけるよう取り組んでいく。職員含め、皆様のご協力が必要となる。引き続きよろしくお願いたします。

<協力者の出席について>

浦尾 ) 本日、成田地域生活支援センター 橋本委員の代理 佐々木氏、松戸特別支援学校 椿委員の代理 西原氏にお越しいただいている。この会への出席について承認いただけるか。⇒ 一同承認

白井市地域自立支援協議会 全体会

(1) 障害者計画策定委員会の報告 資料 2-1

事務局 ) 障害福祉課は障害者計画策定委員会を担っている。パブリックコメントを募り、修正を行ったものについて本日市長決裁が下りた。パブリックコメントにて、「自己決定の文言がないことが残念」という意見をいただき追加している。また、「親御さんのレスパイトの文言が入っていない」という意見やインクルーシブ教育のところで文言の調整あり。強化体制の記載も追加している。配布した資料をご確認ください。追加で諸所ご意見等がありましたら障害福祉課までお願いいたします。

(2) 今年度の各部会活動報告 資料 2-2-1 資料 2-2-2

大網部会長) 生活支援部会について。相談 WG は年 4 回開催。困難事例ケースの検討を行った。今年度は、特別支援学校、相談支援事業所、就労移行から 3 事例提供いただいた。インフォーマル資源については情報を持ち寄って 1 年かけてまとめた。今後も WG 内でアップデートしていく。

精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムは年 2 回開催。多職種が参加している。今年度は初めて事例紹介を行い、意見交換を行った。また、メンタルサポートマップのバージョンアップの検討を行った。

子ども WG は年 4 回開催。昨年度から検討していた教育と福祉をつなぐ研修

を 2 月に開催。ちょっと気になる子どものサポートマップのバージョンアップを実施。インフォーマル資源も相談 WG 同様に毎回話し合いをしてアップデートしていく。また、子どもの第三の居場所について、CoMADO やヤングハートに実情をお話しいただいた。来年度は、障害児通所事業所合同説明会・相談会を実施するため話し合いを進めている。

医療的ケア児支援協議の場については年 2 回開催。市内の医療的ケアが必要なお子さん達の実態把握をどこまでどのように行うべきか、どういうアンケートが良いのか、どういう支援に繋げていくのか等を検討。また、個別避難計画の進捗を確認している。

鈴木会長 ) PDCA プラン視点で、活動計画案について達成度はどのくらいか？

大網部会長) 個人的に子ども WG1 回欠席、医ケア児支援協議の場 1 回欠席してしまった。達成度というところ。全ての議事要録は確認しているが、実際に出席していないと分からない部分もあった。

小林副会長) 教育と福祉をつなぐ研修で、ちょっと気になる子どものサポートマップを配布したら先生たちの表情が変わった。インフォーマル資源についても改めてアンテナを高く持とうと思えた。障害児通所事業所合同説明会について決まってきた、これからどうなるかというところ。医療的ケア児支援協議の場については、訪問看護ステーションも参加してもらえると有難い。

高木部会長) 就労部会については年 4 回開催をした。それ以外に、就労相談会、企業就労応援フェアを実施。就労継続支援 B 型の工賃向上と顔が見える関係性づくりの必要性を感じた。昨年 10 月に開始をした就労選択支援サービスについて。市内で今年 3 月までに計 6 名利用あり。白井市では新しいサービスを適切に使っている印象。

就労相談会の在り方の見直しは必要だと感じた。相談内容に、仕事以外の困りごととも含まれていた。昨年は参加者 8 名だったが今年は 15 名も参加してくださった。

企業就労応援フェアは、求職者 28 名、企業 3 社が参加。企業については 6 社参加予定だったが 3 社になってしまった。それに対してお怒りになる方もいたため反省点でもある。

東坂副部会長) 地域部会は地域課題を話し合うべきところだと考えている。課題整理をしてそこに取り組んでいくべきということが率直な意見。

高橋委員 ) 就労相談会では、すでに支援に繋がっている人の参加が多かった。支援に繋がっていない方や情報が届いていない人の参加が難しい。周知方法等良い手立てがあれば教えていただきたい。

小林副会長) 白井市だけではなく他市でも実施している。各市で行うことがベストなのか、取りまとめて開催や発信していくのが良いのか。参加してくださった方々に

とってどういう形が良いのかを検討する必要がある。また、白井市の企業参加がなかった。企業から手を挙げてもらえるようにした方が良いのではないか。

岡田委員 ) 今年度初めて自立支援協議会に所属をして一年が経過した。当協議会の役員会にも就労応援フェア等を周知したが、なかなか企業側に食いついてもらえなかった。白井工業団地は製造業、鉄鋼業が多い中で、どのような作業で障がい者雇用が出来るのか企業でもよく分かっていないと思う。製造業、鉄鋼業での障がい者雇用の先進事例等を周知することも重要ではないかと考えている。

山本委員 ) 受け手の企業、求職者からすると、近隣市で同じことをやっている分散される。整理は必要かと思う。雇用の質について国から言われている。業態関係なく障がい者雇用をするという動きが出ており、数年後にはどうなるのだという話題が出ている。雇用を進めていくのであれば、地域の方々が通えるような場所を作っていく必要がある。就労部会に就労継続支援 B 型の方が委員として参加している。生産性の部分等も見ていく必要がある。一般就労だけにフォーカスするのではなく、福祉的就労にも視点を置かないといけない。就労相談会についてはニーズが高かった部分。未達成事業について、他の地域でどうしているのか分からないと採用できないとのことだったため、その点について知っていただく必要がある。

村松委員 ) 白井工業団地について。見学をする機会をいただけないか。見学で作業を見ることで「この作業なら出来るかも」と思い浮かぶ。その上で一緒に考えていきたい。

岡田委員 ) 製造業関係が大半。危険が伴う作業が多い中でどこまで出来るのか。清掃系なら出来るかもしれないが、清掃はシルバー人材センターの人がやっている部分。外国人の雇用も増えている。視察をすることについては協力してくれるところもあると思う。しかし、なかなか仕事しながら狭いスペースのどこを見てもらうのかは課題。また、大人数となると駐車場の確保が難しい。

村松委員 ) 企業の利益にも寄り添っていく必要がある。

岡田委員 ) 企業でも明朗塾と繋がり、どうやって雇用していくべきか検討等している所もある。そういう企業を見てもらうのは良いかもしれない。しかし、障がい者雇用を考えていないところにどうアナウンスするかということもある。

鈴木会長 ) こちらの続きについては就労部会で協議を行う。

### (3) 基幹相談支援センター、委託相談の評価について 資料 2-3

浦尾 ) 次年度 1 回目の自立支援協議会に向けた事前相談。障がいの何でも相談である委託相談を座ぐりに委託している。成田地域生活支援センターには精神分野の委託相談を依頼。令和 7 年度は基幹に専門的相談、総合相談を委託。引継ぎ

もあるため、座ぐりは残している。成田地域活動支援センターは継続。基幹相談支援センターは初めての評価となるため、今回示しているこの内容で良いのか。白井市としての優先順位を含めて検討いただきたい。表（左 3・4）が基幹に求める中核的役割。しかし、白井市として当初は 1・2 を中心とした仕様書。委託相談の部分と総合的・専門的相談を基幹に依頼をしている中で、★マークがついているところは委託相談の部分。

- 鈴木会長 ) 基幹がどういうことをやっているか周知する必要もあるが、協議会として検証をしなければいけないことは白井市地域自立支援協議会設置要綱にも書かれているのか。
- 浦尾 ) 基幹についての明記はない。第 2 条 (1) に委託相談については書いてある。第 2 条 (9) にある『前各号に掲げるもののほか、障害者福祉について必要と認められること』として皆さんにご意見を依頼している。
- 鈴木会長 ) 要綱改正をする必要があるということではなく、これらも含まれているという認識。
- 浦尾 ) 次年度 1 回目の全体会で出すのではなく事前相談としたのは、他に知りたい部分等があれば、それを踏まえた資料を提示したいと考えているため。実績評価軸案の内容でよろしいかご意見をいただきたい。
- 飯ヶ谷 ) 評価軸について件数だけが評価ではないとは思っているが、基幹相談支援センターが開所した初年度なのでそれも必要だと考えている。
- 鈴木会長 ) 他市を見ても、評価の基準等がない。数字として出てくる部分もあるが、その他まとめてほしい意見があると良い。
- 川野委員 ) 件数だけでは判断がしづらい。困難ケース協議件数とあるが、何をもって困難とするのかその判断や指標があるのか。
- 浦尾 ) イメージとしては、複合的な課題があるケースまたは他課に跨るケースを想定。地域作り等にもかかる部分。市が把握している膠着しているケース等も想定している。
- 西原氏 ) 松戸特別支援学校は 7 市が学区となっている。困難ケースというか、こども発達センターへの相談ではないが、市役所のどこの課や事業所へ連絡をしたら良いのか分からない場合、まずは基幹相談支援センターへ連絡することがある。白井市のケースは福祉に繋がっているためまだ連絡したケースはないが、今後そうでないケースは基幹相談支援センターへ繋ぐだろう。通常の学校の先生に対しても相談して良い窓口として周知していけると良いと思う。

(4) 次年度以降の協議会のあり方について 資料 2-4

- 浦尾 ) 次年度以降、自立支援協議会をこのように進めてはどうかというあり方について

てのご提案。協議の中で、地域課題について委員の皆様から意見を上げてもらえるようにというキーワードが上がっていた。地域自立支援協議会は『相談支援事業をはじめとする地域における障がい者等へ支援体制の整備に関し、中核的な役割を果たす定期的な協議の場』となっている。国のガイドラインでは、『個別のケースの課題から、地域課題を抽出する場』『地域における障がい者等の支援体制整備に繋げていく場』と記載がある。白井市としては、資料5①協議会の参加委員や協力者から、現場の困りごとや課題について意見を聞き②協議会で、取り組むべき地域課題を見つけ、解決に向けた方法を検討し③障がい者への支援体制の整備に反映させる場、としたい。

また、用語整理も行いたい。かつ、作業部会前の会議を事前協議(定例会議)と設定している。担当の方には会議等が増えて負担になってしまうかもしれないがご協力いただきたい。こういった環境だと委員として意見を出しやすい等ご意見をいただきたい。また、成果を出すとあるが、各事業所に還元出来るようなハードルが低いものでも良いと思う。承認いただけるなら来年度こちらで進めたい。白井市地域自立支援協議会設置要綱 第11条に書かれている通り、協議会の場で諮りながら決めていきたいと思う。

⇒賛成多数により承認 ※ご意見等については事務局にて随時受付中

その他

・各委員からの周知事項、事務連絡等